

受験番号

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（四十点）

この部分は、著作権の関係で  
掲載できません。

受験番号

問一 線部a～eの漢字は読みを答え、カタカナは漢字に直せ。

a	b	c	d	e
---	---	---	---	---

問二 (A)～(C)を補うのに、最も適当な語をそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

ア なぜなら	イ つまり	ウ ところで	エ それから	オ ところが
A				
B				
C				

問三 この文章には「水のないプールでは泳げないようなものだ。」という一文が抜けている。入れる位置として最も適当な箇所を文中の【I】～【IV】の中から選び、数字で答えよ。

--	--

問四 線部①「木を読む」とは具体的にどうすることか。文中の語句を用いて四十字以内で説明せよ。


問五 線部②「身ひとつで独学する心は、おのずと『天』に通じている」のはなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

--	--

- ア 儒学は独学するものであり、儒学では「天を敬する」ことを一番大切にしているから。
- イ 「天」とは神であり、すべての学問は神によって与えられたという考えに従っているから。
- ウ 誰にも頼らず、「天」にすべてをゆだねることにより、初めて「天」の助けが得られるから。
- エ 学問には対象への愛情が必要であり、その愛情は「天を敬する」気持ちから来るから。

問六 線部③『水車』の喩え話」で、(1)水車、(2)水、がたとえているものは何か。文中からそれぞれ一語で抜き出せ。

1	
2	

問七 線部④「自然を科学の力でねじ伏せようとしてきた」とはどういうことか。解答欄の形式に合うように文中から二十字以内で抜き出せ。


問八 線部⑤「人間に大事なことが、何もわからなくなる」のはなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

--	--

- ア 科学の力ですべてのことができるようになったら、それ以上社会が発展しなくなるから。
- イ 科学技術の進歩の先に何が起こるのか予想できず、人類が科学技術に振り回されてしまうから。
- ウ 自然が与える物の性質に逆らうような考えからは、自然の中で生きる知恵が生まれてこないから。
- エ あらゆる物を数の関係に置き換えて考えると、人間への愛情や敬意が持てなくなるから。

問九 線部⑥「教員の知識に振り回されるな」とあるが、筆者はどうすることをすすめているか。文中の語句を用いて四十字以内で説明せよ。


問十 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア しつかりとした学問の対象を持ち、その対象に身ひとつで入り込むやり方では多くない。
- イ 機械を使いこなせるだけの勘と技とが失われてきたことが、自然と人間との関係を変えてしまった。
- ウ これからの時代は、知識と計算で物事を考えることをやめ、科学技術の発展を抑えるべきである。
- エ 師を持たず、自らの知識と経験だけを頼りに学問を続けることこそ真の意味での独学である。

--	--

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（四十点）

受験番号

この部分は、著作権の関係で  
掲載できません。

受 験 番 号

問一 ― 線部 a、b、c の品詞名を答えよ。

a	b	c
-----	-----	-----

問二 〽線部「おこがましい」の意味として、最も適當なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 生意気な      イ 的外れな      ウ 見下した      エ わがままな

--

問三 ― 線部①「うん……その、つまりね……私には、福岡南の剣道が、なんか合わないって、最近……感じるようになって……」とあるが、ここでの早苗の気持ちを説明したものととして、最も適當なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 親友の声は聞き慣れているはずなのに、照れてしまう自分に恥ずかしさを感じている。  
イ 愚痴をこぼすのは好きではなく、親友に弱い部分をさらすことにはがゆさを感じている。  
ウ 相談することは得意ではないが、悩みを理解してもらうために努力しようと思っている。  
エ 伝えたいことが親友に誤解されないよう、慎重に言葉を選びながら話そうと思っている。

--

問四 ― 線部②「もしかしたら今度、東京の方に住めるようになるかもしれない、ってことも、付け加えた」とあるが、ここで早苗が言葉を付け加えた意図は何か。三十五字以内で具体的に答えよ。

-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----

問五 ― 線部③「それが、死角になってた」とは、どういうことか。「それ」の指示内容を明らかにして二十字以内で答えよ。

-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----

問六 ― 線部④「突かれていた。のど元を、グサツ」とあるが、ここで使われている表現技法として最も適當なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 体言止め      イ 擬人法      ウ 倒置法      エ 直喩法

--

問七 ― 線部⑤「震えた。心も、体も」とあるが、ここでの早苗の様子を説明したものととして、最も適當なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 自分が今まで大切にしてきたことを、磯山に簡単に言い当てられて、思わず興奮している様子。  
イ 言葉遣いが乱暴なうえに迫力ある磯山の声にすっかり圧倒されてしまい、恐怖を抱いている様子。  
ウ 今の剣道部の指導に逃げ腰だったが、磯山の発言できちんと取り組もうとやる気になっている様子。  
エ 親友の磯山に力強く励まされたことで、見失っていた自分の剣道を思い出し感激している様子。

--

問八 ― 線部⑥「私にとんでもないことを耳打ちした」とあるが、「耳打ち」した言葉が述べられている部分を文中から探し、最初と最後の六字を答えよ。

-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----

問九 ― 線部⑦「本当はこうじゃないの？」とあるが、早苗の理想とする「剣道」を説明した次の一文の（A）、（B）を補うのに適當な言葉を答えよ。ただし、Aは五字以内で、Bは十字以内で答えること。

（A） 剣道ではなく、（B） 剣道。

A	B
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----

問十 ― 線部⑧「それで負けるんなら、仕方ない」とあるが、ここでの早苗の気持ちを説明したものととして、最も適當なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 黒岩との来たるべき決戦に勝ちたいが、一度も勝ったことがなく勝算のないまま戦わなければならないことを不安に思っている。  
イ 全国大会で優勝経験のある黒岩に勝てなかったとしても、自分の理想とする剣道で立ち向かえたのなら悔いはないと思っている。  
ウ 黒岩に意見をぶつけてもきつと理解してもらえないと感じつつ、真っ向から勝負をして負けたときにあきらめようと思っている。  
エ 親友との約束通り今の剣道部に自分の居場所を作るために、たとえ強敵の黒岩が相手でも自分を信じて挑戦しようと思っている。

--

受験番号

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（二十点）

ある時、馬野へ出て草をはげみける所に、獅子王ひそかにこれを見て、「かの馬を食せん」と思ひしが、「まづ武略をめぐらしてこそ」と思ひ、馬の前にかしこまつて申しけるは、「御辺はこのほど何事をか習ひ給ふぞ。我はこのごろ医学をなんつかまつり候」となん申しければ、馬獅子王の悪念をさとつて、「我もたばからばや」と思ひ、獅子王にむかつて申しける。「そもそも御辺は、うらやましくも医学を習はせ給ふものかな。幸ひわが足に株を踏み立ててわづらふなり。御覽じてたべかし」となんいひける。獅子王得たりと見んといふ。さらばとて、馬片足をもたげければ、獅子王なに心もなくあをのきになつて、爪のうらを見る所を、もとより巧みし事なれば、したたかに獅子王のつらを続けざまに踏んだりける。さしも猛き獅子王も、氣を失ひて起きもあがらず。そのひまに、馬ははるかに駆け去りぬ。その後、獅子王はうはうと起きあがり、身震ひして、ひとりごとを申しけるは、「よしなきそれがしがはかり事にて、すでに命を失はんとす。道理の上よりもつて、いましめをかうぶる事、これ馬のわざにあらず、ただ天道の御いましめ」とぞおぼえける。そのごとく、一切の人間も、知らぬ事を知り顔に振る舞はば、たちまち恥辱を受けん事疑ひなし。知る事を知るとも、知らざる事をば知らずとせよ。ゆるかせに思ふ事なかれ。

〔伊曾保物語〕

- ※1 草をはげみける…草を精を出して食べていた ※2 獅子王…百獣の王である獅子 ※3 食せん…食べよう ※4 御辺…あなた
※5 つかまつり候…習っておりませぬ ※6 株…とげ ※7 わづらふ…苦しむ ※8 得たりと見んといふ…しめたと思つて見ようと言う
※9 あをのき…あお向け ※10 はうはうと…やつのこと ※11 よしなき…つまらない ※12 それがし…わたし
※13 いましめをかうぶる…こらしめられる ※14 わざ…行い ※15 ゆるかせに…いい加減に

問一 線部①「武略」と同じ意味の熟語を次の中から一つ選び、記号で答えよ。 ア 侵略 イ 簡略 ウ 概略 エ 策略

問二 線部②「申しけれ」⑥「巧みし」の主語をそれぞれ文中から抜き出せ。

問三 線部③「獅子王の悪念」とはどのようなことをいうのか。十五字以内で具体的に答えよ。

問四 線部④「我もたばからばや」⑧「すでに命を失はんとす」の意味として、最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

④ ア 私も医学を習えばよかった。 イ 私も相手をだましたい。 ウ 私も診察してもらおうか。 エ 私も獅子王の話を知ろう。
⑧ ア すでに天命を失ってしまった。 イ もはや命を失うことはない。 ウ なんとか天命を失わずにすんだ。 エ 今にも命を失うところだった。

問五 線部⑤「ご覧じてたべかし」は「ご覧になってください」という意味であるが、馬が獅子王に足の裏を見せた目的を二十五字以内で具体的に答えよ。

-----

問六 線部⑦「獅子王はうはうと起きあがり」とあるが、獅子王は自分に降りかかった災難を何によるものだと考えているか。文中から八字で抜き出せ。

-----

問七 本文を二段落に分ける場合、後半はどこからか。最初の五字を答えよ。

-----

問八 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。 ア 獅子王は馬に何を悩んでいるのか質問し、自分は医学を習っていると告げた。 イ 馬は足にとげが刺さっているで何とかして抜いてほしいと獅子王に頼んだ。 ウ 馬の依頼を受けたとき、獅子王は思い通りに事態が進んでいることを喜んだ。 エ 獅子王は自分の行いを思い返し、馬を軽く見て油断したことを深く後悔した。

-----

問九 本文から得られる教訓として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。 ア 知らないことについて知っているふりをしてはならない。 イ 自分よりも弱い者だからといって見くびってはならない。 ウ 身につけた専門知識をよくないことに使ってはならない。 エ どのような理由があっても他者の命を奪ってはならない。

-----